

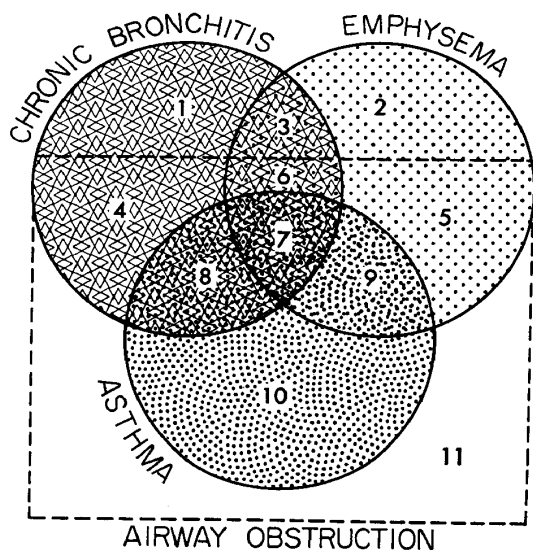
「慢性閉塞性肺疾患—その治療を中心として」

前 川 暢 夫

司会にあたって

慢性閉塞性肺疾患 (Chronic Obstructive Pulmonary Disease, COPD) は慢性気管支炎, 肺気腫症及び気管支喘息のように, 程度や頻度に差はあっても気道の閉塞を伴う疾患群の総称であって各疾患の概括的な定義は American Thoracic Society (ATS) や Ciba Guest Symposium 等によって明らかにされているが, Snider の模式図にも見られる如く各疾患は相互に種々の面で重なり合っている。

従って臨床的に個々の症例の示す病像は極めて複雑であり, 病状は非常に多岐にわたっている。



G.L. Snider et al, Dis. Chest 54; 362, 1968.

るので, その診断及び治療に際してはかなり個別的な配慮や取扱い方が必要になると考えられる。その最も大きな要因としてはこれら各疾患を有する個体が負っている拘束性の呼吸機能障害や, 気道に加えられる急性の感染や気管支系の形態変化(気管支拡張症)等があげられよう。

本シンポジウムでは, 1) 病態と診断, 2) 病像及び 3) 治療の 3 部に大別して, 各領域に経験の深い方々から発言を頂いた上で慢性閉塞性肺疾患の治療について討議をしたいと考える。

1) では主として呼吸不全によって惹起される disability の診断の問題が中心となり, 2) では各疾患群の臨床像とそれによる臨床分類の試み, 更にはこれらの症例の臨床的取扱い方が論ぜられ, 3) では気管支喘息に主題を絞って, その本態的治療に関連して減感作療法と, 対症療法のうち特に喘息発作の重積状態にある症例の具体的対策とを中心に論ぜられるものと期待している。

非常に大きな主題に対して未熟な司会が加わる為と, 時間が極く限られている為に十分に各演者の意図を徹底し, 討議のまとめを得る事が出来るかどうかを案じている。

今後機会を得て, このシンポジウムで得られた帰着から, 又は提起された問題点から更に歩を進めてこの領域での収穫を少しずつでも明らかにして行きたいものとする。